

・ヴェネズエラ
・アトランタ (アメリカ)

秘境ギアナ高地の旅



◇ギアナ高地概要◇

(04/8/5 ~ 16)

発端 三大滝の踏破を目指し、漸く三つ目のヴィクトリア滝を終えた頃から、高さ 979 m、末端は霧に消えるというエンゼル滝の存在が私たちに認識されてきた。ツアーも出始めたという。こうなれば行かないわけにいかない。早速申し込みを開始。しかし日にちが合わなかったり不催行になったりで実現せず、他の旅行が続く、四年越しの今回漸く実現の運びとなった。

コースは、まずアトランタへ飛び、カラカス、更にプエルトオルダス、そこからチャーター機を使ってギアナ高地に入り、サバンナドライブを経てカナイマへ。幸いに雨期としては珍しいという好天に恵まれ、雄大な滝と秘境の景観が満喫できた。

ところで、この纏めの仕方には大変頭を悩ませた。今までと違って、いわば一極集中の旅だったからだ。そのため形も通常と多少違ったものとなった。

アトランタ

コースの都合で前泊と後泊の二泊。行きは部屋の鍵が壊れて閉じこめられて悪戦苦闘。カラカスが選挙前の治安危険ということでオプションのアトランタ観光が加えられてジョージア・ストーンマウンテンパークなどを見た。デルタ航空と空港内での日本人に対する扱いは極めて悪く、不愉快な思いが残った。

カラカス、プエルト・オルダス

前後合わせて三泊したが、カラカスは前述の事情で観光は殆ど無し。プエルト・オルダスは最近発展の目覚ましい工業都市だそうだが、カナイマの前座となる雨中オリノコ・カロニ川クルーズを楽しんだ。

ルエパ～サンタ・エレナ

プエルト・オルダスからチャーター機でルエパへ、そこから車で広大なグラン・サバンナを、所々滝など見ながらサンタ・エレナへ。途中村の祭りに出っ食わ

したりして楽しめたが、メーンのロマイナ山展望台ではロマイナは見えず。サンタ・エレナのロッジは野趣に溢れていた。

カナイマ

今回のメーンの地であるカナイマは標高 600 ~ 700 m、ロッジと飛行場の他はインディオの土産屋数軒と少しの民家があるだけ。ロッジはカナイマラグーンに面し、右手にナイアガラ級の滝群が見られる。

エンジェル滝 標高 2500 m、頂部面積 700 k m² の巨大なアウヤンテプイから流れ落ちる落差 979 m の滝である。落ちるに従って水は飛沫となり、滝壺はなく、しかし滝の麓からは小さな川が流れ出ている。

展望台への当日は、早朝モーター舟に乗って、カナイマからカオラ川、更にチュルン川を遡ってラトンシート島上陸、ジャングルの坂道を上って展望台へ。狭い場所だが幸い貸し切り状態、雲・風に変化する滝を堪能した。乾期にはここまで登ってこられないという。二度目のセスナ飛行でも滝を見ることができた。

カナイマラグーンと周辺 ラグーンというが、実態は上下流とも滝に挟まれた湖状の場所。上流からはナイアガラ級の滝が並んで落ちている。横手に回ってのサポ滝の滝裏くぐりは圧巻。増水期のため凄まじい水勢で飛沫が吹き込んでくる。ところでこの地域の水がコーラ色なのは、卓上台地上の腐食状態が緩やかで葉から出るタンニンが水を染めるからだそう。

カナイマの子どもたち 飛行場の横手に一寸したインディオの集落があり、そこや飛行場で土産物を買ったりしている。この子どもたちに合唱を教えている人がおり、なかなかのものである。ロッジにデモにも来て、CDを買った。ペルーと同じように素朴な愛らしさを持つ子たちである。（文・写真整理 片山守）

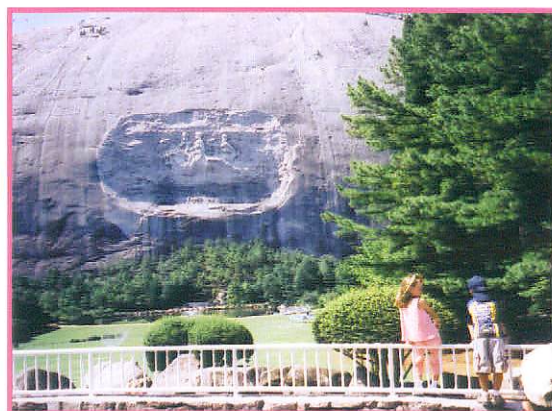
アトランタ



▲アトランタ中心部のビル群
ガラスの多いのが特色。



▲寿司レストラン「紅花」
ビルの一角の半地下にある。
なかなかの味だった。



◀▲▼ジョージア・ストーンマウンテン・パーク

↑ 巨大な彫刻はあの大統領たちを彫った作者のもの。

←パークの入口

↓ 巨大なストーンマウンテンの上



◀▲ターナー・フィールド入口と
ハンク・アーロン像
他にもニークロなどの像が
置かれていた。



▲マーガレット・ミッチェルハウス
「風と共に去りぬ」はここで生まれた。



↑ 愛想のいい売店の売り子



▲キング師の墓
マーチン・ルーサー・キング・
ジュニア国立歴史地区内に
ある。アトランタはキング師
抜きには語れない。



▲◀アメリカの地下鉄
実は写真禁止区域。



▲アトランタオリンピック跡
五輪のマークが見える。



▲広大な緑に囲まれた都市 一歩中心を離れると、広大な緑。この外側に住宅地区がある。

プエルト・
オルダス

プエルト・オルダス、カラカス郊外



▲大規模な水力発電所



▲あちこちにある製鉄所 多分製鉄所だろう。
マイニングを中心に近年急激な発展を遂げ、
数百万都市に成長した。



▲空から見たオリノコ、カロニ川の合流点
カラカス～オルダス定期飛行内から写す。



▲合流点の水の色の違い
泥色がオリノコ、黒色がカロニ
川である。

カラカス郊外



オリノコ川
カロニ川 クルーズ

▲滝をめぐって
川にかかるいくつかの滝
に突っ込んでいく。飛沫
が降りかかる。



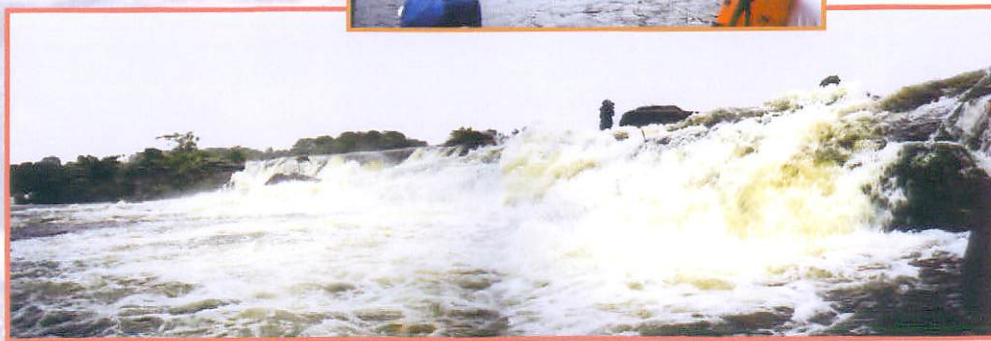
▲住民の漁
滝の近くで住民が
川魚を捕っている。



▲クルーズから見た製鉄所
船で運ばれてくるのか、川岸に
面している。



▲五年前の豪雨による土砂崩れ跡
これによって中腹の町は壊滅的被害を
受け、富裕層は上部に移っていった。
今は、貧困層の住むところとなっている。



▲多くの川が滝となって合流する



▲露店と人の群れ



▲崖側には貧しい
家が並ぶ

大統領リコール投票による政情不
安定で中心部には入れなかった。

サバンナと滝

ルエパ〜サンタ エレナ



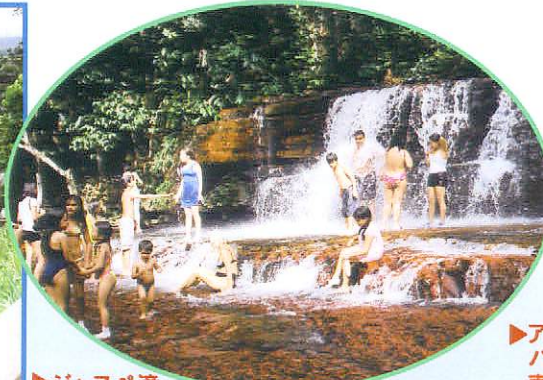
◀チャーター飛行機
17人乗り、プエノス・オルダス空港を飛び立つ。



▲ジャングルを蛇行する川
標高ほぼ1000mの平坦な地形が続く。



▲大規模なカマ(双子)滝 真ん中の岩で双子に分かれる。



▶ジャスベ滝
一枚岩の赤い宝石で出来ている。



▶アメリカン・
ハイウェイ
南米を縦断
する。



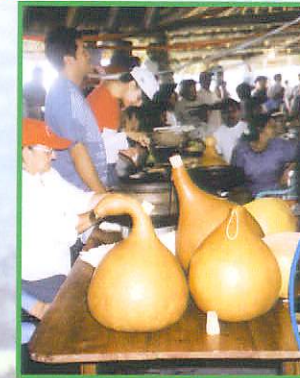
▲▶パチエコ滝と食虫植物 河原にいろいろ
な珍しい植物があった。



▼広大なグラン・サバンナ
ジャングルの両側はサバンナが続く。



▲かうい・メル滝 林を下った谷間の
静かな滝。



▲▶伝統料理の紹介祭り
(サンフランシスコ・デ・ユリアン)

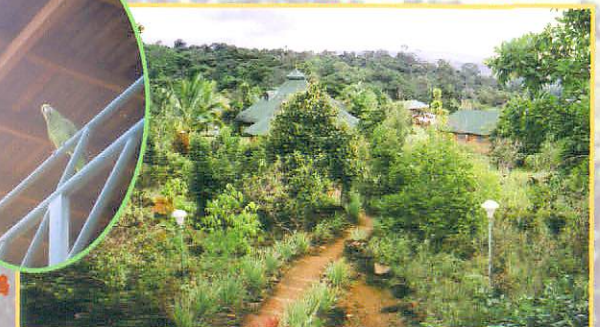


▼サポニアによる川面の泡



▲香の調剤

◀サンタ・エレナの宿舎ヤッコ・キャンプ



エンゼル滝①

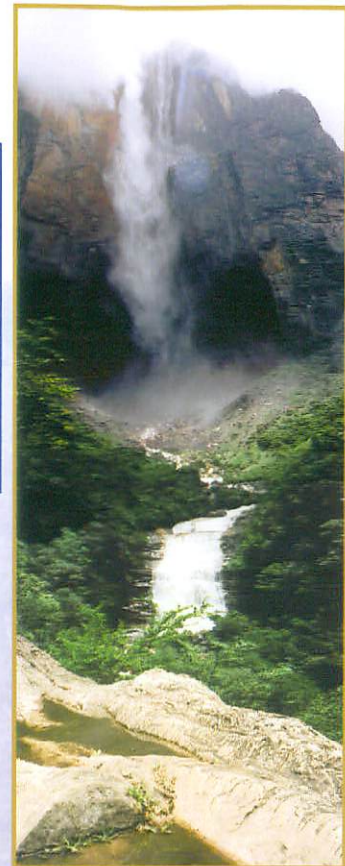
展望台
から



▲木の葉隠れに
展望台やや左手から。



カナイマからボートで川を遡る。乾期はかなり下流のオーキッド島までしか上れない。今回は雨期にもかかわらず天候に恵まれ、ラトンシート島まで遡って展望台に登ることができた。見ている内に次第に雲が晴れて、滝を満喫できたのは誠に幸運だったといえる。



▲麓から流れ出る小川一本
霧散した水が集まって
小川になる。



▲滝の麓の虹
(高島氏撮影)



◀朝食はサン
ドイッチ



▲オーキッド島対岸に上陸
乾期はここまでしか上れない。



▲昼食を取ったラトンシート島の休憩所



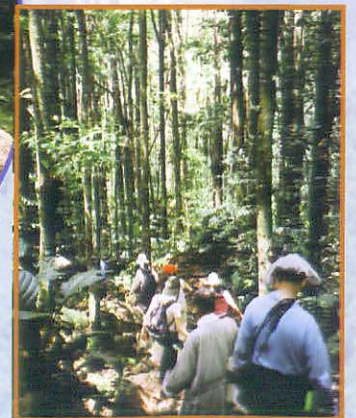
▲ジャングルを登る
二時間弱、結構きつい。



▲展望台の看板

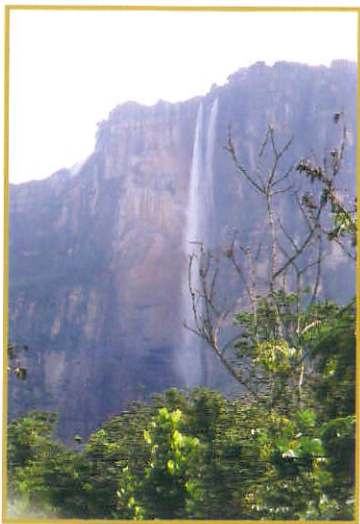


▲展望台
展望台といえる程の
広さではない岩鼻。

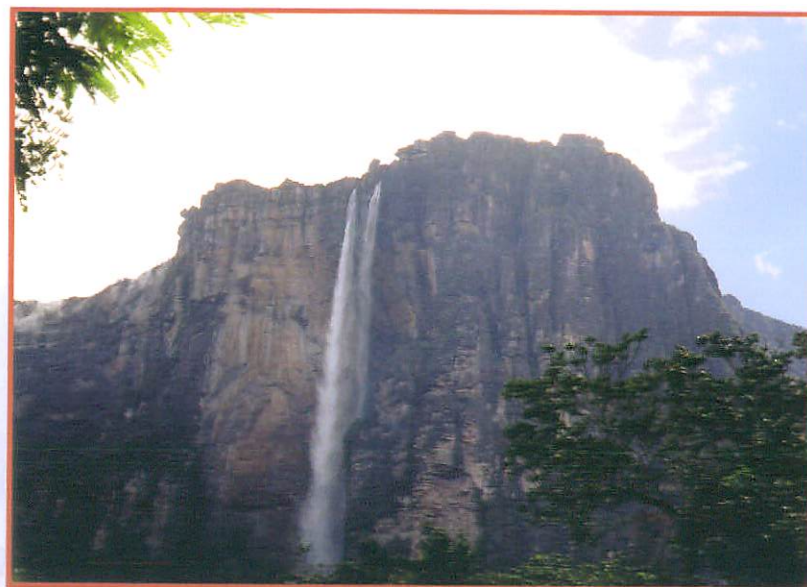


▲帰途ジャングルを下る

エンゼル滝 ② 麓から



▲午後はすっかり晴れた空



▲麓のラトンシート島から見上げるエンゼル滝の勇姿



▲記念の集合写真



▲珍しい雲の模様
日本では見られない形
の雲が次々現れる。



▲無事帰途につく
何か腹一杯のような
ホッとした雰囲気
が漂う。



▲舟から見るテプイ
の一角



▶下りのボートとすれ違う
帰り船と互いに飛沫を
上げてすれ違う。



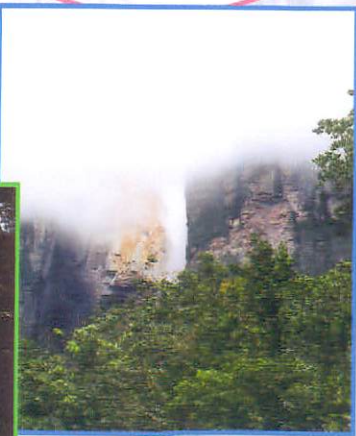
▶舟で川を渡る
朝4時半起き、舟
は丸木船にエンジ
ンを付けたよう。
滝に向けて川を
渡る。

▼オーキッド島越しに見上げるアウヤン・テプイ



▶さようなら
滝を満喫してそろ
そろ帰途。滝の壁
面が遠ざかる。

◀滝を中心に見る
周辺の展望



▲霧の中の滝
午前中はどうなるかと思ったが…。

エンゼル滝③

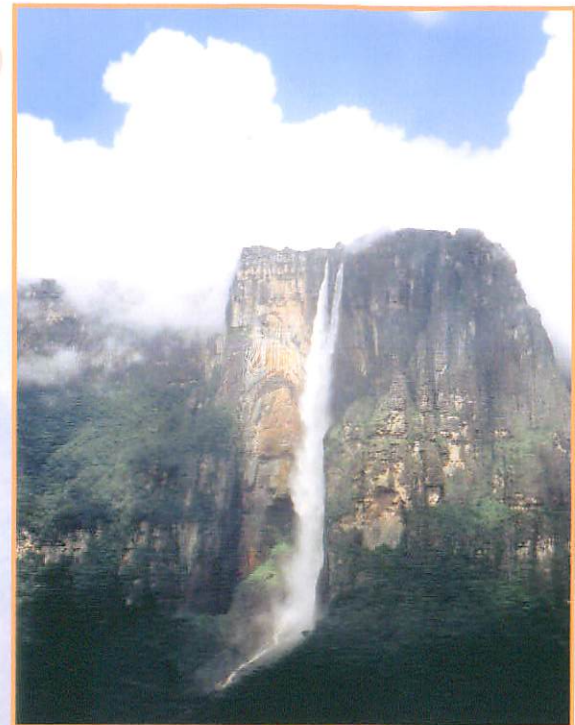
セスナ
から



▲最接近して



▲アウヤン・テプイの壁面を流れ落ちるエンゼル滝 (高島氏撮影)



▲青空に映える



▶飛行を終えて
ツアー仲間の香西さん夫妻と。

▼テプイの壁面と滝群



▲ラグーンの水を
ながら空中へ



▼ぼろセスナでドアが
パタパタ



◀一回目の飛行は
雲で散々だった



▲カナイマの飛行場



カナイマと周辺



▲空から見るカナイマ滝群



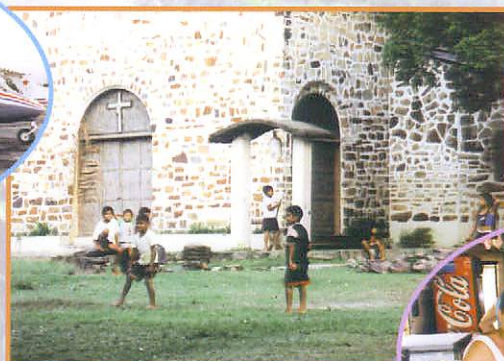
▲ロッジから見るカナイマラグーン
ラグーンというが、上下を滝で挟まれた湖の様相である。



▲左端、最大のアチャ（斧）滝
これだけでナイアガラ級である。



▲飛行場に到着



▲村の子どもたち
ゴムボールで野球遊び。



◀サボ滝の滝裏潜り
雨期で水量が多く、
潜るのが大変だった。

▼サボ滝上部
遠景に多くのデブイが。



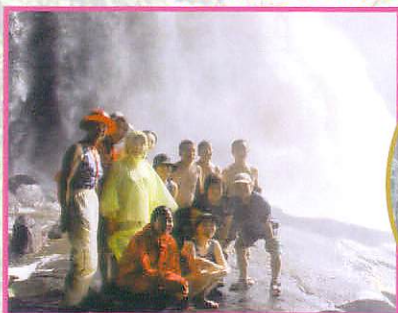
▶滝と虹
カナイマは虹の意味。
屢々綺麗な虹が架かる。



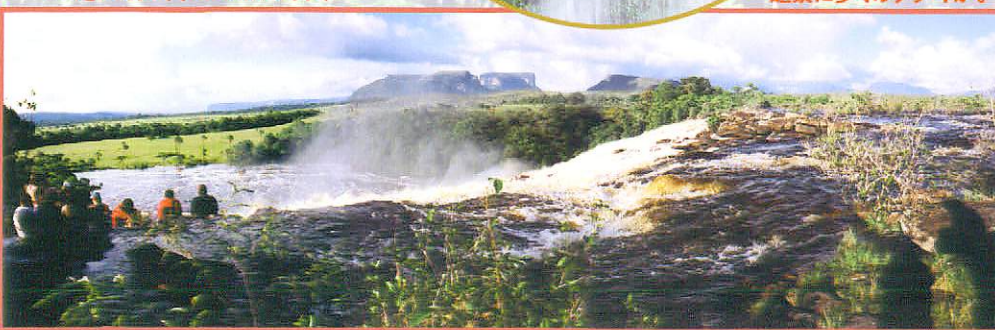
▶村の土産屋
無骨いが愛想もある親父。



▶ユリネ滝
日本的な雰囲気がある。



▲滝を潜り終えて記念写真



▼ユリ滝 落差はないが幅広で独特のムードがある。

ギアナの子どもたち



◀おしゃまな妹と
照れ屋の兄ちゃん



▲若い母ちゃんと



▲いたずらな姉妹
(ジョージア・グレートストーン・パーク)



▲立派に商売している (カモイラン滝脇で)



▲髪を編んだ可愛子ちゃん
我々と同じ飛行機でヴェネ
ズエラに飛んだ。



▲カナイマの広場で子どもたちと



▲ハイ、きをつけー！
(サンフランシスコ・デ・ユルアニ)



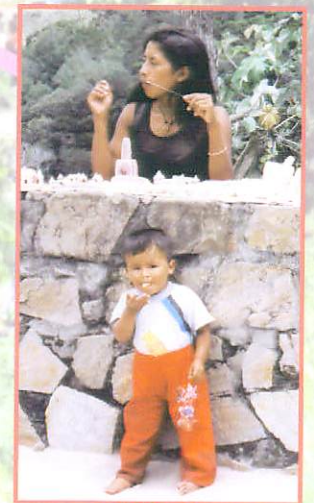
▲新しい靴でバイバイ
(カナイマ売店前)



▲飛行場裏で一人遊び



▲みんなのマスコット (ジャスベ滝で)
◀ボク、可愛いでしょ！

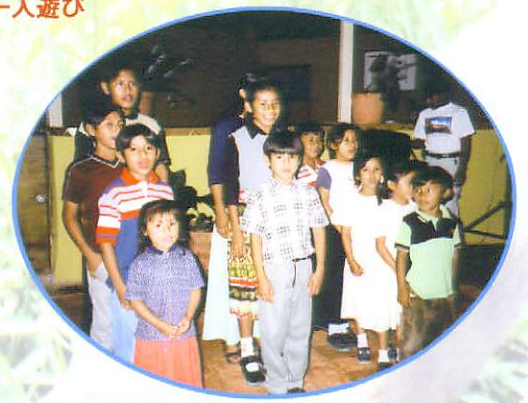


▲おいしい

カナイマの
飛行場で



▲飛行場売店の売り子姉妹



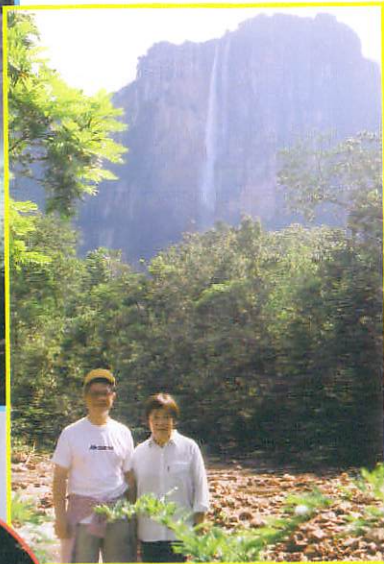
▲村の少年少女合唱団 本格的合唱で
女性の指導者の下でCDも出していた。

わたしたち



▲展望台

▶ 麗のラトン
シード島で



▲サボ滝上部で



▲グラン・サバンナをバックに



▲カウイ・メル滝



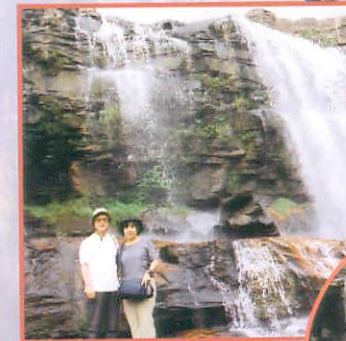
▲この上展望台です



▲マーガレット・ミッチェルハウス



▲カナイマ飛行場に到着



▲パチェコ滝



▲カマ滝



▲ライフジャケットの重装備



▲カナイマのロッジでくつろぐ

▶ ブエノス・オルダスのホテル
広く綺麗なホテルだった。



◀ カナイマラグーンで
アチャ滝をバックに